

化学療法指示書

登録番号 75

PEM 3週毎 総コース数はPDまで

ID:				
氏名			指示者	
身長	cm	体重	kg	体表面積 m ²

・非小細胞肺癌
・悪性胸膜中皮腫

・PEM(ペトレキセド) 500mg/m² = ()mg/body day
血清Cr: mg/dl Ccr: ml/min(Cockcroft-Gault)

<ビタミンB12投与>

ペトレキセド初回投与の1週間以上前にビタミンB12 1mg(メチコバル注(500μg) 2A) 筋注
その後ペトレキセド最終投与日から22日目まで9週毎に筋注

<葉酸投与について>

ペトレキセド初回投与の1週間以上前より葉酸1日1回0.5mg(パンピタン末1g分1朝食後)を
連日経口投与。その後ペトレキセド最終投与日から22日目まで連日経口投与

<嘔吐・アレルギー反応予防>

Day2、Day3 デカドロン(4mg)2錠 朝食後内服

コース目 月 日(day 1)

生理食塩液100ml ルート確保・フラッシュ用

生理食塩液 100 mL
デキサート(6.6mg) 1 A

15分

生理食塩液 100 mL
ペトレキセド ()mg
(総量100mLにする)

10分

◆ 嘔気時:(開始後28日目)まで適宜下記を投与

1) グラニセトロン注(3mg/50mL) 1袋+エリーテン(10 mg) 1A 点滴静注(30分)

(1日に2回まで)

2) 生食100 mL+デキサート(6.6mg) 1A+エリーテン(10 mg)1A 点滴静注(60分)

(1日に1回まで)

◆投与開始基準

PS:0-2
好中球 $\geq 2000 / \mu\text{L}$
Hb $\geq 9.0 \text{ g/dl}$
Plt $\geq 100000 / \mu\text{L}$
T. bil ≤ 1.8
AST ≤ 95
ALT ≤ 110
クレアチン・クリアランス $\geq 45\text{ml/min}$ (CockcroftGault式)

◆化学療法の休止もしくは投与量変更の基準

(1)血液毒性に対する調節

血小板数及び好中球数の最低値	前回用量に対する割合
最低血小板数 $\geq 50000 / \mu\text{L}$ 及び最低好中球数 $\geq 500 / \mu\text{L}$	100%
最低血小板数 $\geq 50000 / \mu\text{L}$ 及び最低好中球数 $< 500 / \mu\text{L}$	75%
最低好中球数に関わらず最低血小板数 $< 50000 / \mu\text{L}$	75%
最低好中球数に関わらず最低血小板数 $< 50000 / \mu\text{L}$ (出血を伴う)	50%
最低血小板数に関わらず最低好中球数 $< 1000 / \mu\text{L}$ ・ 38.5°C の発熱	75%
2回の減量後の CTC グレード 3 又は 4 の血小板減少及び好中球減少の再発	中止

(2)粘膜炎に対する調節

CTC グレード	前回用量に対する割合
0 ~ 2	100%
3 ~ 4	50%
2回減量後のCTCグレード3又は4の粘膜炎の再発	中止

(3)下痢又は他の非血液毒性に対する用量調節

入院を要する下痢の場合、症状が消失するまで投与を行わず、ペメトレキセドによる治療は用量を75%に減量して再開すること。他のCTCグレード3以上の非血液毒性には、治療開始以前の患者のベースライン値と同等又はそれ以下に回復するまで休薬する。減量が必要と主治医が判断した場合、用量を75%に減量して治療を再開する。CTCグレード3又は4のトランスアミラーゼ上昇には、薬剤の減量ではなく休薬する。

(4)血清クレアチニン・クリアランス値に対する用量調節

各コース開始時、血清クレアチニン・クリアランス値が 45ml/分 以上あることを確認する。 45ml/分 未満の場合には、42日を上限に回復するまで休薬し、42日以内に回復しない場合には投薬治療を中止する。